



## ポストコロナ時代の図書館の役割

看護学第二講座 准教授 山本 武志  
(附属総合情報センター 副センター長)

COVID-19の感染拡大により、日本中（おそらく世界中）の図書館において、入館制限、会話の禁止、座席数の制限、グループ学習室の閉鎖、学外者の利用禁止、営業時間の短縮、飲食の禁止など、利用者同士の接触を避けるための利用制限が課されています。この原稿を執筆している9月13日は本学の行動指針制限レベルが「4」となっており、附属総合情報センターは上記に加えてカウンター業務も中止しており、感染拡大を防止するための厳しい措置が執られています。わたしは、この4月から附属総合情報センターの副センター長を拝命しており、主として「図書（本・雑誌）」管理に関わる業務を承っています。しかしながら、上記の制限により、実際に附属総合情報センターに行く機会はコロナ前よりもむしろ減っており、十分な役目を果たしているものか自問しているところです。



さて、「図書館」という施設のあり方について考えてみますが、図書館は「情報の収集（整理と保存を含む）と提供」が主たる機能であることがさまざまな文書に記載されています。1950年に制定された図書館法には「『図書館』とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」（下線は筆者によるもの）と書かれています。戦後間もなくつくられた法律に、「レクリエーション」という文言が書かれていることに驚きを禁じ得ないのですが、（文部省の社会教育局長や事務次官を歴任した）西崎恵氏は1970年に出版した「図書館法」という書籍に、レクリエーションとは「適当な娯楽、スポーツ等を楽しみ、平易で高尚な音楽、芸術等を楽しんで、今日の疲労をいやして再び明日の人生を創造する」とことと記しています。さらに、「図書を気楽な近づき易いものにする」ために「集会を奨励する」という、図書館の「レクリエーション・センター」としての機能の重要性を述べています。

本学の附属総合情報センターにおけるレベル「4」の利用制限も、まさしく、この図書館の「レクリエーション・センター」としての機能をすべて停止するものです。わたしが本学に着任したのはちょうど10年前ですが、大学の図書館がこれほどまでに学生に身近な存在で、単なる学習の場ではなく、憩いの場やコミュニケーションの場として利用されているのは、他大学では類を見ないと感じました（もちろん節度のある利用が前提ですが）。図書館で楽しく勉強ができる、そんな日はもうやって来ないのかもしれませんが、本学の附属総合情報センターのこの特徴は、今後も引き継がれていくべきものと思います。バーチャル図書館という発想も一部では実現化が進んでいるようですし、学生に親しまれる、新しいレクリエーション機能を持つ図書館のあり方を考えてもいいかもしれません。コロナはわたしたちに多くの縛りや制限をもたらしていますが、わたしたちの学びを豊かにする、新しい発想を生み続けていきたいものです。

▶ 「EBMについて改めて考える」

札幌医科大学附属病院 薬剤部薬品情報係長 國本 雄介

「EBMとは、evidence-based medicineの略で、科学的根拠に基づく医療のことです」と自分史上初めて“EBM”という言葉に触れたのは、私が薬学生時代の2000年頃でした。私にとって“EBM”は、全体像が捉えにくく、薬剤師として入職後も具体的な実践方法を理解している、とは言えない状況でした。そもそも、「EBMの実践≒エビデンスの利用」と誤解すらしていました。EBMとは何か？を改めて整理するために、Sackett先生が定義したEBMの概念図をお示しします(左図)。私が「EBMの実践」と思い込んでいた、「最良の科学的根拠の把握」は、EBMの一部分であり、残る2つのファクター“患者価値”と“臨床的経験”を統合することがEBMであると理解できます。



私が薬剤部の中で業務を行っている薬品情報室では、最良の科学的根拠を把握した上での対応が求められます。私は、薬物療法に関する情報の検索に「DynaMed」を使用しています。大学内で使用可能なこのツールは、批判的吟味を行った上で情報を掲載し

ており、「最良の科学的根拠の把握」を実践する際の強い味方です。DynaMedには「Overview and Recommendations」という記事の要約があり、短時間で効率的に、必要な情報にたどり着くことができます。EBMを実践する過程には、ステップ1: 臨床的疑問の定式化、2: 情報収集、3: 情報に対する批判的吟味、4: 情報の患者への適用、5: 1～4の振り返りがあり、DynaMedの使用は、ステップ2と3を強力にサポートしてくれます。

一方、薬剤師は、ステップ2と3に集中するだけでなく、「4: 情報の患者への適用」の部分にも関わるべきだと考えています。つまり、皆さんの近くにいる薬剤師は、「エビデンス」を提示するだけでなく、「患者価値」と「医療者の臨床的経験」を統合し、意思決定する際の重要なパートナー≒EBMの実践には便利なツールの使用および薬剤師との協働を推奨します、というのが本記事の結論です。

▶ EBMに役立つ！データベース



↳ 系統的に構成された多数のトピックを収録、臨床上の疑問を短い時間で解決できるEBM実践ツール。

附属総合情報センターでは、この他にも多数のデータベースを提供しています。

● 情報センターHP > 図書館サービス > 文献検索 or 電子コンテンツ

上記からご利用ください。



↳ Ovid「EBM Reviews」および「MEDLINE」が一括検索可能なプラットフォーム。



↳ 「今日の疾患辞典」「今日の間診票/診断辞典」「薬剤情報」「診療チェックリスト」の4種類の医学教科書群をパッケージ化した診療マニュアル。



↳ 治療法や薬剤情報等、医学書院のベストセラー書籍15冊・約10万項目を収録した国内最大級の診療データベース。

# 図書館を快適に利用するために!!



## 館内利用マナー

快適に館内利用を行うためには、皆様のご協力が必要です。

### 全般的なお願い

- 私物等の放置はしないでください。特に貴重品(財布・携帯電話・パソコン等)は常に携帯してください。
- 図書館の資料、備品は大切に扱ってください。万一、汚損・破損・紛失した場合は、速やかに職員に申し出てください。
- 館内での携帯電話(通話・スピーカー利用)はしないでください。通話は、館外でしてください。
- 館内利用環境維持のため、「学習・音(会話, 動画視聴)・飲食」のルールを厳守してください。

### 新型コロナウイルス感染症予防・防止対策のお願い

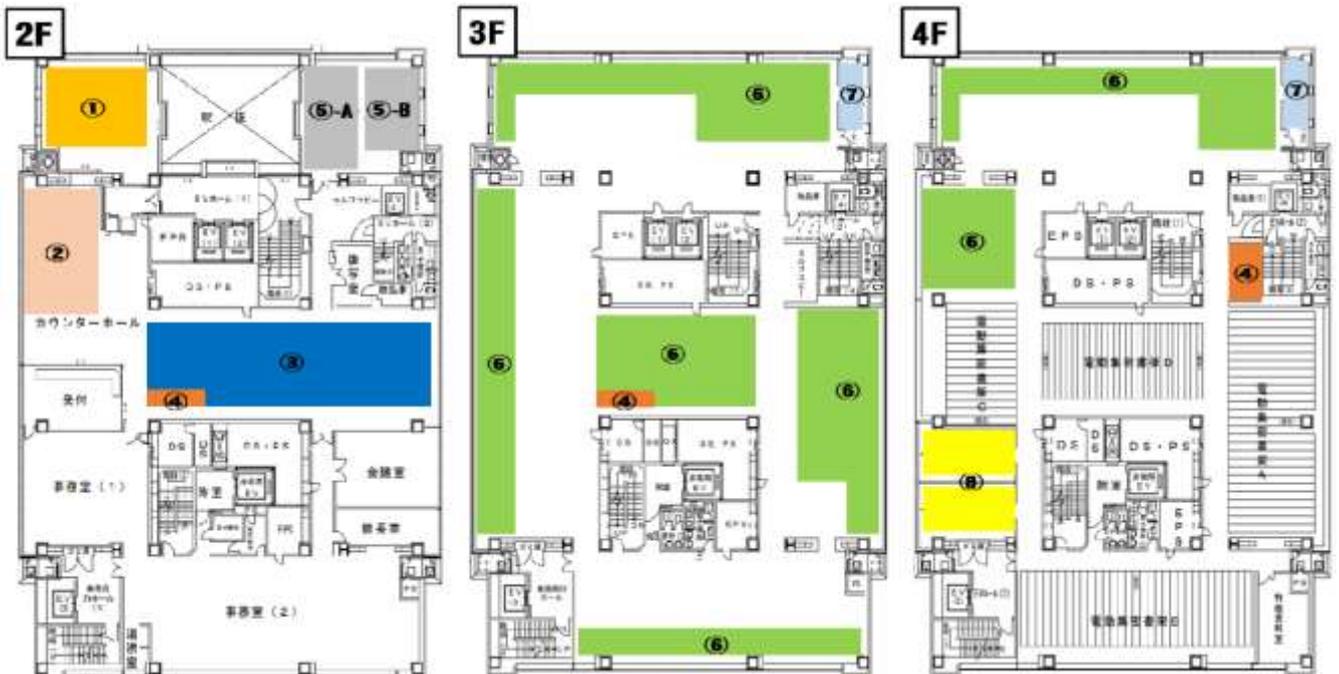
- 館内への入退館時は、必ずアルコール液で「手指消毒」をしてください。
- 館内では、飲食時以外常に「マスク着用」をし、「密集、密接」を避け大声で会話をしないでください。
- 使用禁止の座席に座らないでください。
- 利用時間(8:00-20:00)外の館内利用はしないでください。(学部学生対象)

## 館内利用ルールマップ

【可否: 可●, 不可×】

フロア	マップ色 (No.)	エリア	学習		音			飲食(持込含む)			
			個人	グループ	会話	動画視聴		食べ物 臭いの強い物、汁気のあるカップ麺等除く	飲み物		
						発言/発声(無)	発言/発声(有)		ペットボトル等のスグレューチャップ付限定	左記以外	
2F	①	プラウジングルーム	*1	×	×	●	×	×	●	●	●
	②	ラウンジ	*1	●	●	●	●	×	●	●	●
	③	学習エリア		●	●	●	●	×	●	●	×
	④	情報検索エリア		×	×	●	×	×	●	●	×
	⑤-A	AVルーム(個人)		●	×	×	●	×	●	●	×
	⑤-B	AVルーム(グループ)	*2	●	●	●	●	×	●	●	×
3F	⑥	閲覧エリア(3F/4F)		●	×	×	●	×	●	●	×
	④	情報検索エリア		×	×	×	×	×	●	●	×
4F	⑦	研究個室(3F/4F)	*2	●	×	●	●	×	●	●	×
	⑧	セミナー室(4F)	*2	●	●	●	●	×	●	●	×

\*1: 新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる行動指針レベルにより、利用制限(閉鎖/開放)をするエリア  
\*2: 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用停止中エリア



## 電子ジャーナルの大量ダウンロードに注意！

電子ジャーナルは、契約上、大量ダウンロードが禁止されており、一定時間内に相当数のダウンロードがあると通報される仕組みになっています。

繰り返される場合には、大学全体で電子ジャーナルの利用が停止されることもあり、皆様に注意をお願いしています。

意図していなくても、ブラウザの「先読み機能」が有効になっている場合、大量ダウンロードが自動で発生する場合があります。

お使いのブラウザの「先読み機能」が無効になっているか、改めて確認をお願いします。

(確認方法)

- 各ブラウザの設定画面を開き、以下のいずれかの項目をオフにします。

「ページ予測を使用」>「閲覧速度の向上、読み取りの改善、全体的な使用感の向上に役立ちます」(Edge)

「ページをプリロードして、閲覧と検索をすばやく行えるようにする」(Chrome)

「パフォーマンスを最適化するためにサイトとコンテンツをバックグラウンドで読み込む」(IE11)

「バックグラウンドでトップヒットを事前に読み込む」(Safari)

## 情報センターセキュリティ便り

## ～ 新米の言葉 ～

情報推進室へ配属され早五ヶ月。昨年度まで山林に開設する道路の設計を行っていた人間が、今年度からシステムや情報セキュリティに関する業務を担うこととなった。各種申請対応及び管理。設定等に係るヘルプデスク的役割。そして、これまで言われるがまま漠然と守ってきた情報セキュリティに関する規則を、今度は自身が指示、指導、周知しなくてはならぬ立場となった。

他人へ物事を伝えるには、まず自身が理解をしなくてはならない。専門用語が飛び交う中、頭を混乱させながら勉強を始めた。様々な要領や規程を読み進める中で抱いた印象は、複雑、細かい、難しい。素人の私にとって「そこまでしなくても別にいいじゃん」と感じるような規則もあった。しかし情報セキュリティにおける最悪の事態を防止するためには必要な規則なのだ。日々業務を進めるにつれ少しずつ理解することができている。多分。

昨年度までの業務では、自身の設計した工事が完成することで Google map 上に新たな道が表示されたり、車両など到底入ることのできなかった山林に道路が出来上がったりとといった視覚的な達成感を得ることでやりがいを感じていた。現在の業務において、以前のような形で達成感を得ることはなくなったが、代わりに「ありがとう」と言われることが多くなった。各種申請に対する事務処理等を通じて学内の方々と関わることで生じる僅かなコミュニケーション。非常に些細ではあるが、感謝の言葉はやはり嬉しく感じる。

まだたったの五ヶ月。分からないことは山ほどあるに違いない。これからも自分なりのやりがいを持ち、業務に取り組んでいきたい。

総務・システム係

内線: 22390/22490

Email: icccj@sapmed.ac.jp

### ◆総合情報センターへのお問い合わせ先

お問い合わせ内容	内線	E-mail	照会先
図書館の利用に関すること	24240	libserv@sapmed.ac.jp	利用サービス (カウンター)
学内所属員の文献複写依頼に関すること	24180	illr@sapmed.ac.jp	利用サービス
学外からの文献複写の申し込みに関すること	24170		
図書に関すること	24160	book@sapmed.ac.jp	図書係
雑誌に関すること	24230	serial@sapmed.ac.jp	図書係
札幌医学雑誌に関すること	24160	satuisi@sapmed.ac.jp	図書係
メールアドレス、LAN への機器接続に関すること	22390	icccj@sapmed.ac.jp	総務・システム係
図書館へのご意見・ご要望に関すること	24170	libserv@sapmed.ac.jp	利用サービス

誌名「Barks (パークス)」は、本の語源でありますラテン語の「樹皮 (liber)」の英訳です。

パークス  
**Barks**

Sapporo Medical University  
Scholarly Communication Center

北海道公立大学法人  
札幌医科大学附属総合情報センター

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目  
TEL 011-611-2111 (代表) FAX 011-641-9646

URL <https://infonavi.sapmed.ac.jp/jpr/>

E-mail [libserv@sapmed.ac.jp](mailto:libserv@sapmed.ac.jp)